

シン山びこ

https://school.e-tokushima.or.jp/es_fukui/



阿南市立福井小学校
学校だより9月号-02
R6.09.02 No.32
文：校長 吉積 清



DO it NOW!! って、どういう意味やろう？



これは、学校再開の9月から12月までの**教育活動のねらい**をまとめたポスターです。各教室をはじめ、校内各所に貼りました。新学期の4月から、ふり返れば、赴任させていただいた昨年の4月から、校訓「自主，創造，感謝」を成長の目標として「自分から行動しよう，新しいことに挑戦しよう，ありがとうを言おう」といろいろな機会が伝えてきました。児童もそらんじて口にできるようになってきました。また，今年には学校創立150周年。この記念に立ち会う喜びと様々な行事の意義を関連付け，児童の所属感を高めさせています。これによって，自己肯定感の向上を目指しています。6年生がまとめたキャッチフレーズは，このねらいを見事に表しています。

学校の一年間にとって9～12月は，ここで伸びなければいつ伸びる？というほど，児童が学年の学びをグングンと自分のものとし，成長する時期です。私は『実りの秋』と呼んでいます。ただし，成長には共通するものがあります。それは『自分でやる』です。いつですか？『今』やるのです。いろいろな行事や日々の授業で前向きに取り組む，今できることの積み重ねを全力でやる。それが“**DO it NOW!!**”です。

お帰りって声かけて，ゆっくり休んで(甘えて)，行ってきいよと送り出してください。

9月 家庭人権学習の日

～ご家族で、人権について話してみましょう～



8月8日(木)の『南海トラフ地震臨時情報〔巨大地震注意〕』の発表で、巨大地震の発災への防災ステージが一段階進んだように感じます。それは、「いつか地震が起こるかもしれないので、防災の備えをしておきましょう」といったお知らせ的なものから、「地震が起こった時には、あなたは自分が何をどうするか考え、決めて、準備しておきなさい。それは、どこにいても大切です」との自分でできることは自分でする自助力Upへの進化です。

さて、私たちは数多くの震災を通して、災害時に人権問題が生じやすいことを学んでいます。このことの現状と課題から、平時の備えを意識したいものです。

<たとえば>

▶2011年の東日本大震災における、福島第一原子力発電所の事故により、避難された人々に対して、風評に基づく嫌がらせが発生。

▷2016年の熊本地震では、避難所におけるプライバシー確保の他、障がい者、女性、高齢者、外国人など、要支援者への配慮の不足。

<これらの人権問題は、自分に関係ないと断言できますか。どうします？>

▶原発事故で地方へ避難した家族、子供へのいじめが起こった事件は記憶に新しいです。以来、全国の学校は次のような指示を受けています。

- ① 個別面談、保護者への連絡などにより、児童生徒がいじめを受けていないか、悩みや不安を抱えていないか、できるだけ早く把握するように努めることを最優先とする。
- ② もし、いじめの事実があると思われるときは、速やかに学校でのいじめ等の防止対策の組織で情報共有し、いじめの事実の有無の確認、被害者への支援などの対応を図る。
- ③ 被災児童生徒が受けた心身への多大な影響、慣れない環境への不安などを、教職員が十分に理解し、児童、生徒に対する心のケアを適切に行う。

→ **学校の人権擁護機能を有効に活用する**

▷熊本地震でのいわゆる要支援者への配慮と支援については、様々な地域で問題視され、その対策を講じる自治体が増えています。

(例) 災害発生時の避難に特に支援が必要な人をあらかじめ確認しておき、災害発生の危険が生じた時、近隣住民が支援し、速やかに避難できるような避難支援体制づくり。

避難行動要支援者として把握していない住民であっても、家族が勤務で不在などの際は、地域で支援を行うよう働きかける。



→ **日頃からの地域でのつながりを強めていく**

<災害時の人権問題への平時の備え>

地域ごとや家庭での対策が大切。平時からの見守りや声掛けを行い、いざという時に、地域のみんなが避難できるよう、災害時の役割を決めておくのも大切です。また、要支援者やその家族は、日ごろから地域と積極的につながっておくことが大切です。

<まとめ>

私たちが人権問題を考える時に忘れてはいけないことは、震災の記憶を風化させず、身近な体験として受け止め続けることです。普段から、人と人とのつながりを意識することがとても大切です。